

白銅株式会社(7637)

2026年3月期第3四半期 決算説明資料

2026年2月10日

目次

1. 2026年3月期第3四半期 決算内容 P.2
2. 2026年3月期 業績予想 P.16
3. 重点戦略の実施状況 P.19

1. 2026年3月期第3四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

49,680百万円
(前年同四半期比△0.9%)

売上総利益

7,518百万円
(前年同四半期比△3.8%)

経常利益

2,153百万円
(前年同四半期比△7.8%)

2026年3月期第3四半期サマリ

<売上高>

原材料市況の影響による商品単価の上昇、海外向けの販売量ならびに官需向け中心に航空・宇宙業界向けの販売量は増加したものの、半導体製造装置業界の需要低迷により販売量が減少したことにより前年同四半期比で売上高は減少。足元では半導体製造装置業界の売上高は増加しており、今後回復の見込み。北米においては前年同四半期比で売上高が増加。一方、中国、タイは前年同四半期比で売上高が減少。

<売上総利益>

売上高の減少に加え、工場の新設等による製造原価の固定費増加により前年四半期比で3.8%減益。

<経常利益>

Oristar社の配当金増加等により営業外収益は増加したものの、従業員給与等販管費の増加により前年同四半期比で7.8%減益。

連結損益計算書（PL）サマリ

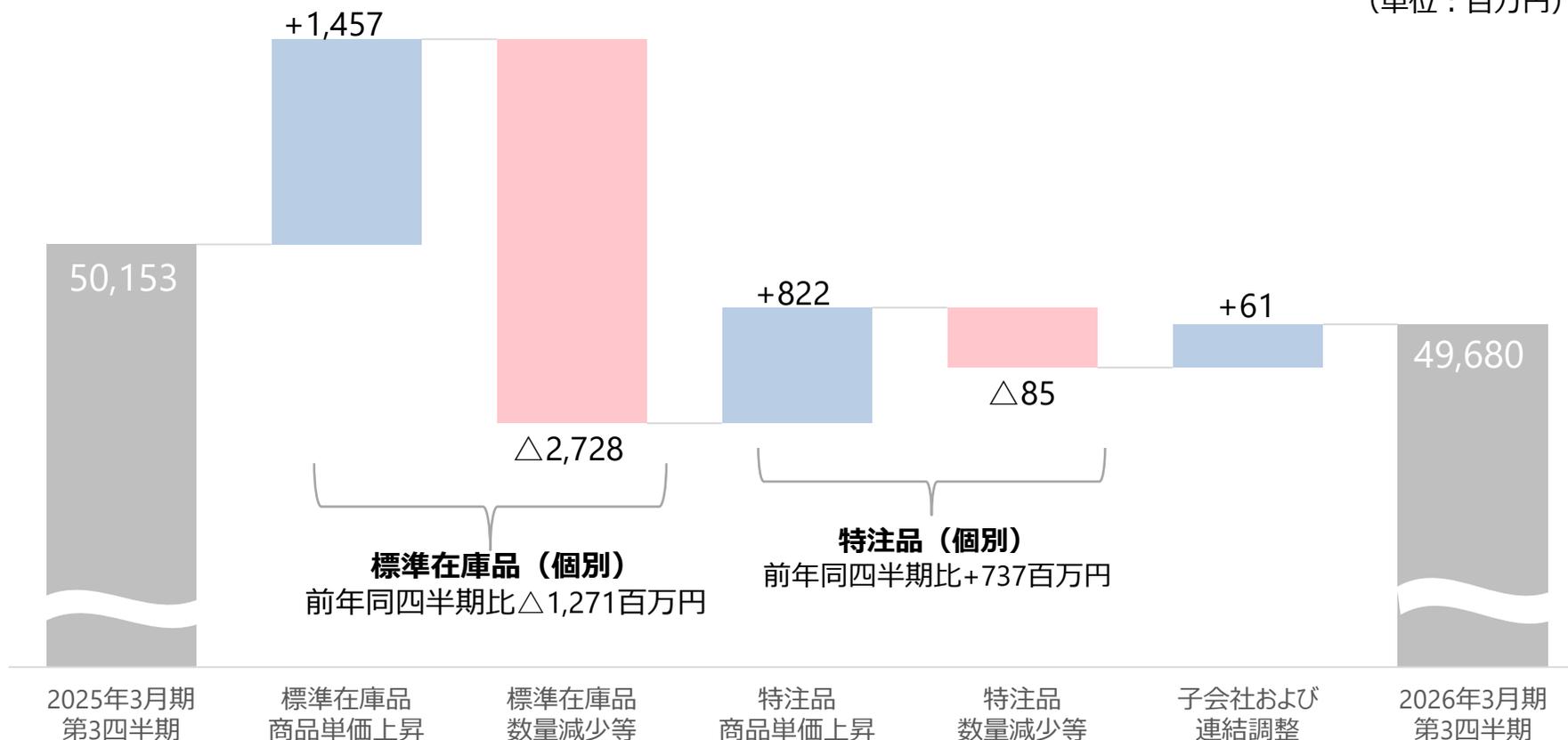
（単位：百万円）

	2025年3月期 第3四半期	売上高 比率	2026年3月期 第3四半期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	50,153	-	49,680	-	△0.9%	△472
標準在庫品	29,529	58.9%	28,104	56.6%	△4.8%	△1,424
特注品	20,624	41.1%	21,576	43.4%	+4.6%	+952
売上総利益	7,811	15.6%	7,518	15.1%	△3.8%	△293
営業利益	2,209	4.4%	1,951	3.9%	△11.7%	△257
経常利益	2,335	4.7%	2,153	4.3%	△7.8%	△181
棚卸資産影響額 (△は損)	318	0.6%	195	0.4%	△38.6%	△123
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	2,016	4.0%	1,958	3.9%	△2.9%	△58
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,556	3.1%	1,436	2.9%	△7.7%	△119

売上高の前年同四半期比差異要因

- 原材料市況の影響により商品単価が上昇したものの標準在庫品の販売重量は減少。

(単位：百万円)



前年同四半期比 白銅個別標準在庫品 販売重量： $\Delta 9.6\%$ 商品単価： $+5.5\%$

品種別売上高

- 商品単価上昇等もあり、伸銅の売上高が対前年同四半期比で増加。
- その他（特殊鋼・チタン・プラスチック等）についても売上高が増加。
- アルミニウムは半導体製造装置向けの販売量減少に伴い対前年同四半期比で減少。

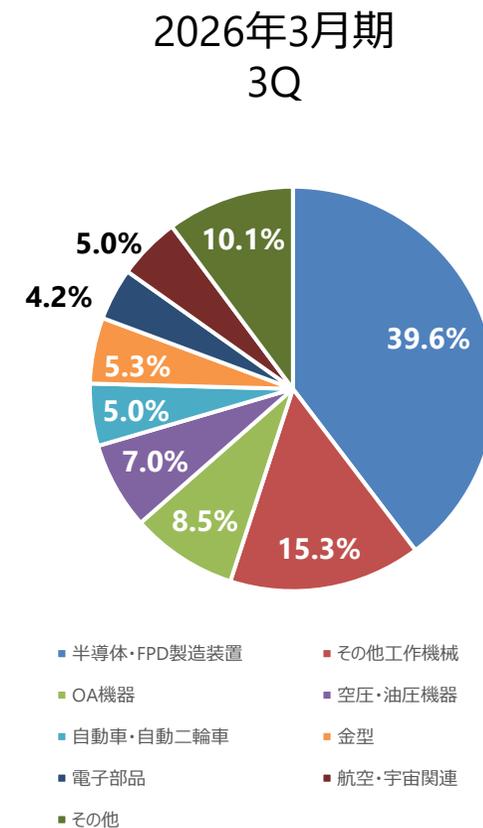
(単位：百万円)

	2025年 3月期					2026年 3月期				対前年同 四半期比
	1Q	2Q	3Q	3Q 累計	4Q	1Q	2Q	3Q	3Q 累計	
連結売上高	15,745	16,742	17,665	50,153	16,256	17,059	15,640	16,981	49,680	△0.9%
アルミニウム	9,363	10,449	10,984	30,797	10,017	10,455	9,514	10,304	30,274	△1.7%
伸銅	2,442	2,312	2,425	7,180	2,321	2,345	2,302	2,602	7,250	+1.0%
ステンレス	3,061	3,122	3,347	9,530	3,073	3,317	2,975	3,158	9,452	△0.8%
その他	878	857	908	2,645	843	939	848	915	2,703	+2.2%

業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置業界向けの売上高構成比率は2026年3月期2Q以降上昇傾向。
- 航空・宇宙関連業界、および自動車・自動二輪車業界は5%前後で推移。

	2025年3月期				2026年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
半導体・FPD製造装置	37.3%	42.2%	43.0%	39.4%	36.9%	38.2%	39.6%
その他工作機械	17.8%	15.6%	14.9%	15.8%	15.9%	15.5%	15.3%
OA機器	10.3%	9.4%	8.7%	9.3%	9.8%	9.8%	8.5%
空圧・油圧機器	5.9%	5.5%	5.8%	5.3%	6.4%	6.3%	7.0%
自動車・自動二輪車	5.1%	5.1%	5.6%	5.7%	5.5%	4.9%	5.0%
金型	5.4%	5.3%	5.2%	4.8%	5.4%	5.1%	5.3%
電子部品	4.0%	3.8%	3.8%	4.3%	4.1%	4.0%	4.2%
航空・宇宙関連	4.3%	4.3%	4.3%	5.2%	6.2%	5.7%	5.0%
その他	9.9%	8.8%	8.7%	10.2%	9.8%	10.5%	10.1%



セグメント別業績

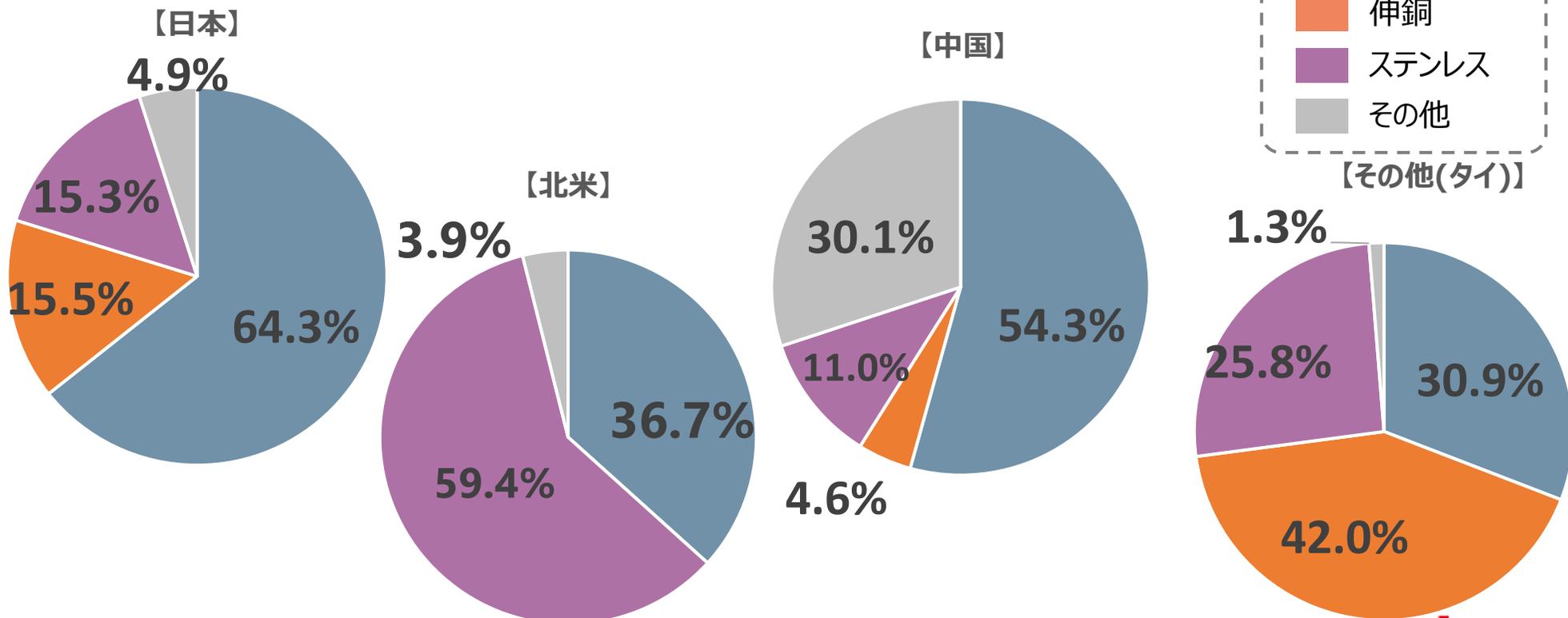
- 北米セグメントでは、前年同四半期比で売上高は増加し、営業損失、経常損失が縮小。
- 中国は、国内の景気低迷等の影響により売上高が減少。
- その他セグメント（タイ）においても売上高は微減。

（単位：百万円）

セグメント	2025年 3月期 第3四半期				2026年 3月期 第3四半期			
	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純損益	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純損益
日本	43,620	2,247	2,341	1,582	43,012	1,889	2,119	1,432
北米	3,874	△173	△162	△150	4,057	△54	△103	△104
中国	1,392	3	24	18	1,360	△6	14	10
その他	1,267	132	131	105	1,250	123	123	98

2026年3月期第3四半期 セグメント別 品種別売上高比率

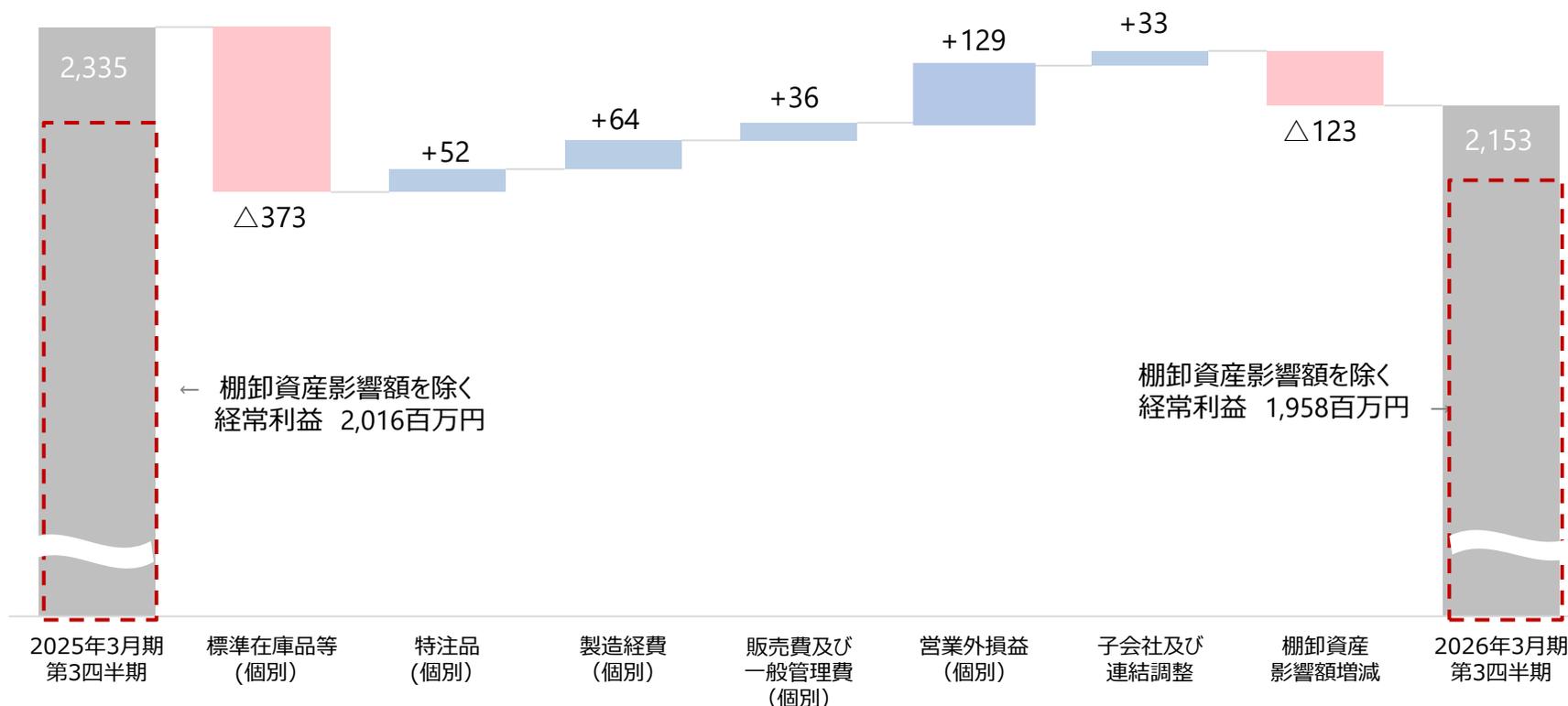
- 【日本】半導体製造装置業界向けの販売比率が大きい影響でアルミニウムが大きな比率を占める。伸銅・ステンレスの売上高比率は同等となっている。
- 【北米】ステンレスの売上高比率が前年同四半期比で上昇。
- 【中国】半導体製造装置業界向けの販売がメインとなるためアルミニウム比率が高い。一方で、金型・自動車業界向けの特殊鋼含むその他品種の比率が日本より大きくなっている。
- 【その他(タイ)】金型・自動車業界向けの伸銅が大きな比率を占めている。



経常利益の前年同四半期比差異要因

- 白銅個別の標準在庫品粗利益および棚卸資産影響額は減少。特注品粗利益、子会社は増加。
- 営業外損益についてはOristar社の配当金等が増加。

(単位：百万円)



連結貸借対照表 (BS)

- 子会社等の売上高増加に伴い現金及び預金が増加。
- 埼玉第二工場新設および本社増床による差入保証金が増加。

(単位：百万円)

資産の部	2025年3月末	構成比率	2025年12月末	構成比率	増減
流動資産	35,028	78.3%	34,368	77.4%	△660
現金及び預金	5,473	12.2%	5,694	12.8%	+220
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,833	37.6%	16,928	38.1%	+95
棚卸資産	12,522	28.0%	11,552	26.0%	△969
その他流動資産	199	0.4%	193	0.4%	△6
固定資産	9,716	21.7%	10,055	22.6%	+338
有形固定資産	6,404	14.3%	6,286	14.2%	△118
無形固定資産	1,470	3.3%	1,323	3.0%	△146
投資その他の資産	1,841	4.1%	2,444	5.5%	+603
資産合計	44,745	100.0%	44,424	100.0%	△321
負債及び純資産の部	2025年3月末	構成比率	2025年12月末	構成比率	増減
流動負債	20,919	46.8%	19,901	44.8%	△1,017
買掛金 (含 電子記録債務)	18,598	41.6%	17,691	39.8%	△907
未払費用	888	2.0%	895	2.0%	+7
未払法人税等	547	1.2%	266	0.6%	△280
その他流動負債	885	2.0%	1,047	2.4%	+162
固定負債	70	0.2%	130	0.3%	+60
負債合計	20,990	46.9%	20,032	45.1%	△957
純資産	23,755	53.1%	24,391	54.9%	+636
負債純資産合計	44,745	100.0%	44,424	100.0%	△321

流動資産 △660百万円

- 現金及び預金の増加
- 標準在庫品在庫減少による棚卸資産の減少

固定資産 +338百万円

- 埼玉第二工場新設、本社増床による差入保証金の増加
- 投資有価証券の増加

流動負債 △1,017百万円

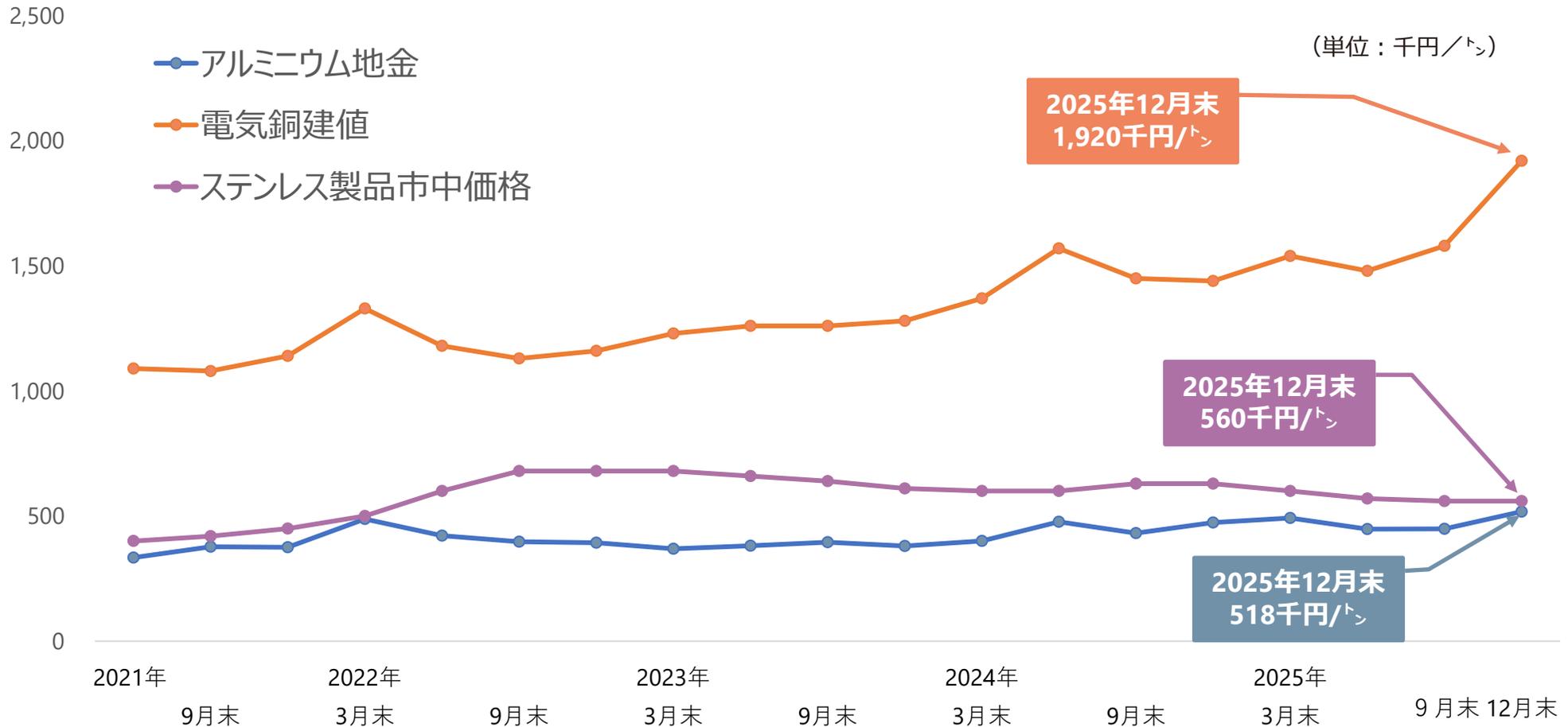
- 支払期日短縮による電子記録債務の減少

固定負債 +60百万円

純資産 +636百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

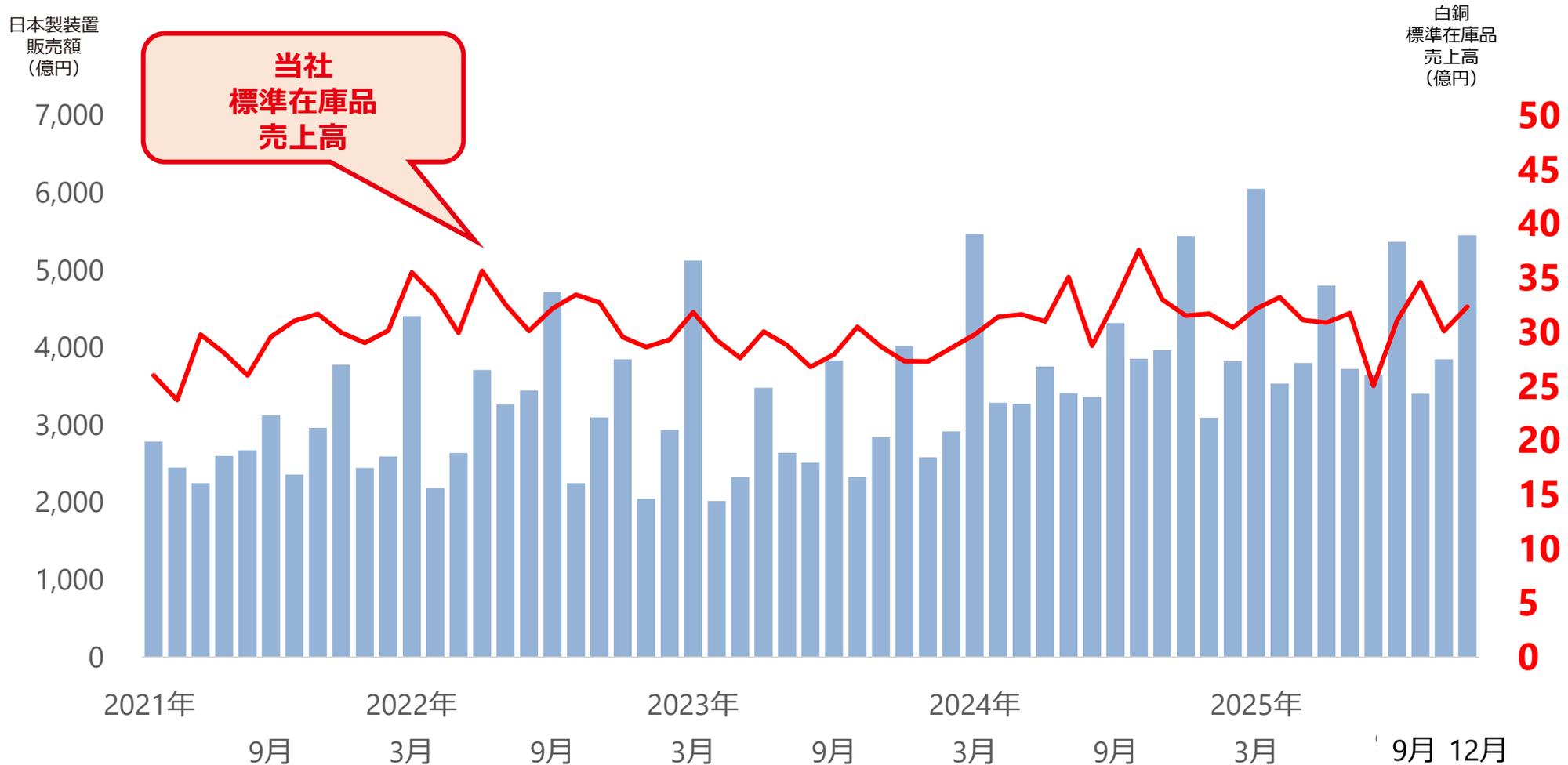
- 銅の供給リスクが高まり急伸した国際相場の影響で、電気銅建値が大幅に上昇。
- 国際価格の上昇や為替の円安進行などの影響により、アルミニウム地金は上昇。
- ステンレス製品市中価格は引き続き横ばいに推移。



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
 アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

- 半導体・FPD製造装置業界向けの売上高は直近は上昇の兆し。
- 直近の金利の上昇、為替相場の変動等により先行きは不透明。

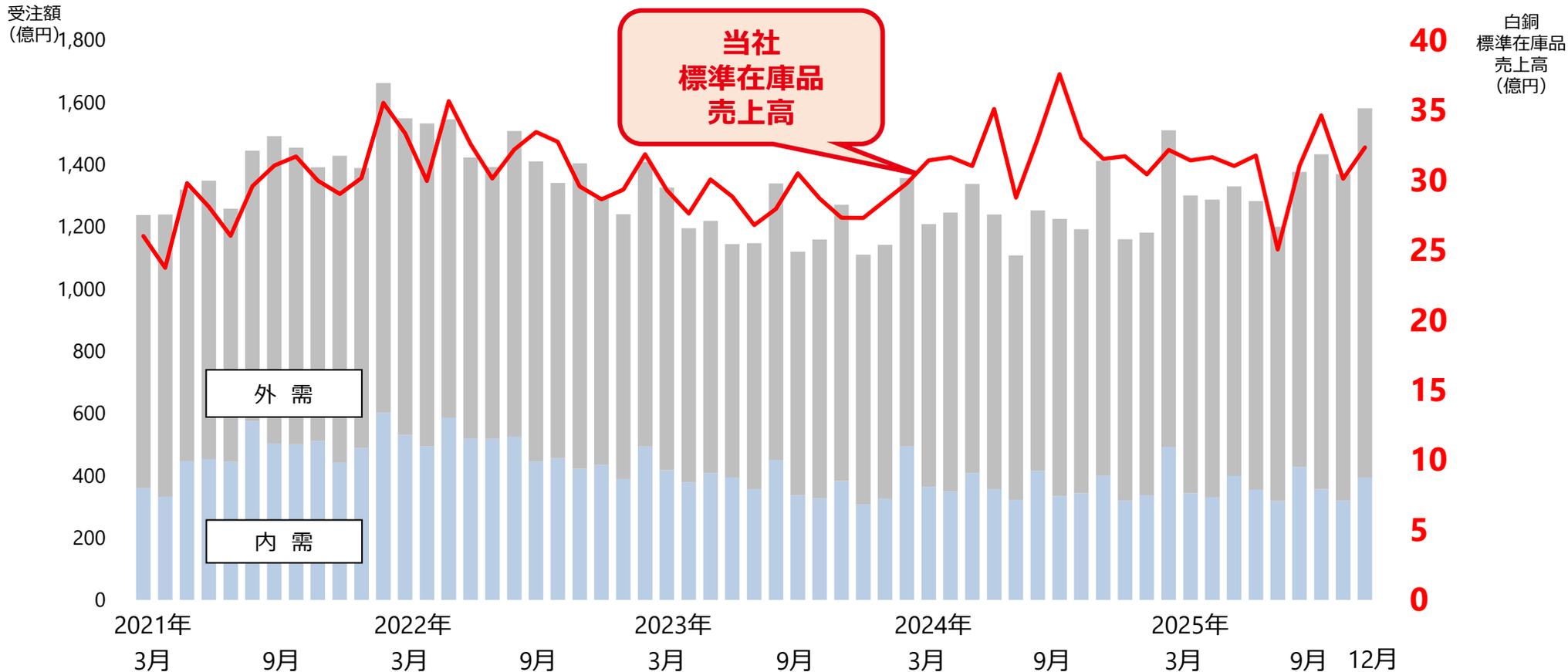


出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

2026 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

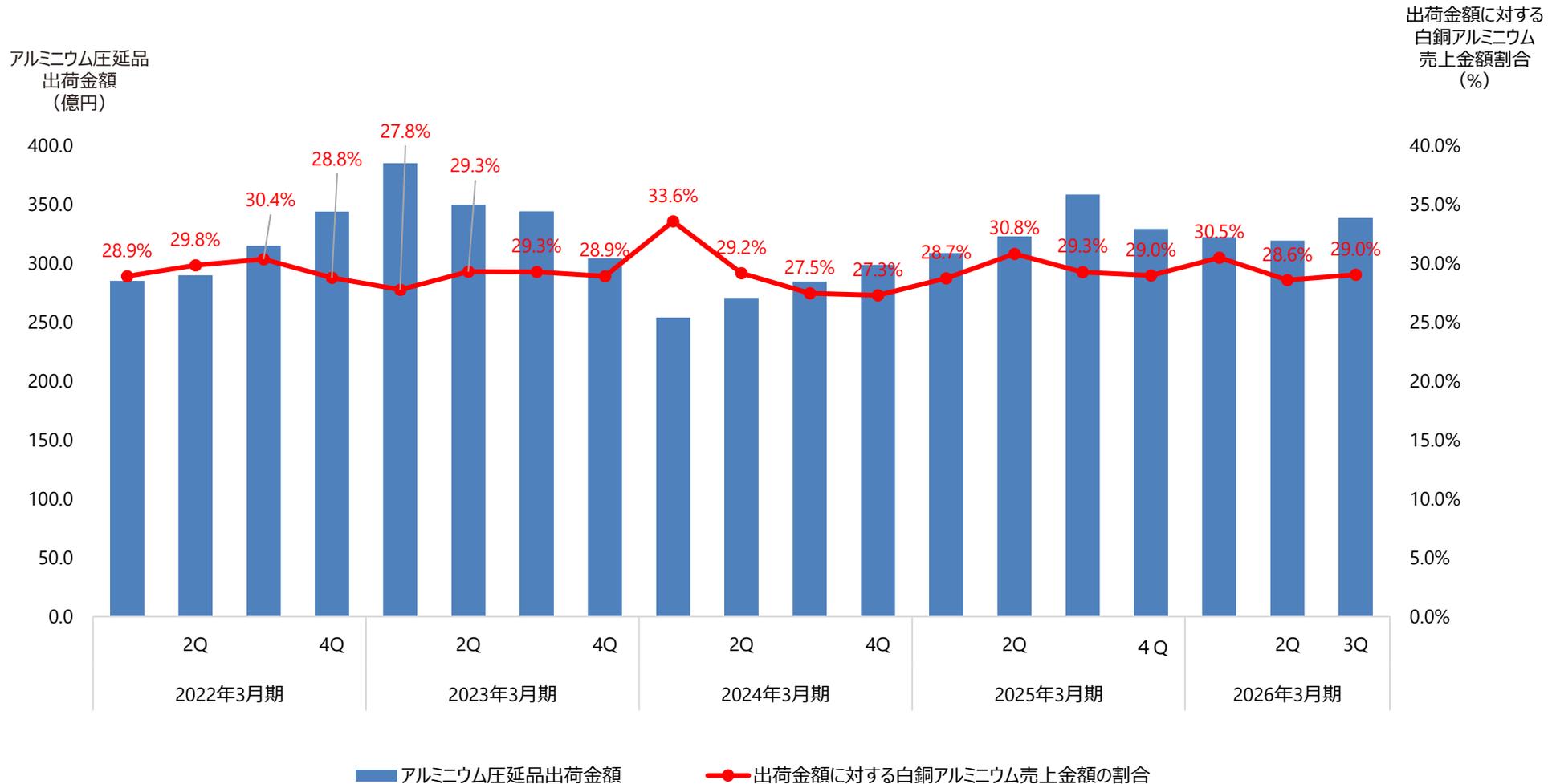
- 工作機械業界は、人工知能（AI）や半導体に関わる機械の需要増加に伴い、外需の受注額が増加。
- 受注額は前年3Q期間(10~12月)比で内需0.7%減少、外需20.4%増加。



出典：日本工作機械工業会 工作機械統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は、引き続き30%前後で推移。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 通期業績予想の上方修正

- 新商品や新加工導入や「白銅ネットサービス」の機能追加など各種施策を着実に実行したこと、コスト上昇分の適切な価格転嫁により、当第3四半期に利益改善の兆しがみられた。
- 半導体製造装置業界において生成AI向けのメモリーを中心に今後の需要増加が見込まれる。
- 原材料市況の上昇による棚卸資産影響額の差益および、為替レートが想定よりも円安で推移したことも利益増加要因。

(単位：百万円)

	2026年3月期 通期 前回発表予想	2026年3月期 通期 今回修正予想	増減率	増減額
売上高	67,200	68,000	1.2%	800
営業利益	2,450	2,690	9.8%	240
経常利益	2,580	3,000	16.3%	420
親会社株主に帰属する当期純利益	1,690	1,960	16.0%	270

株主還元策（配当実績と予想）

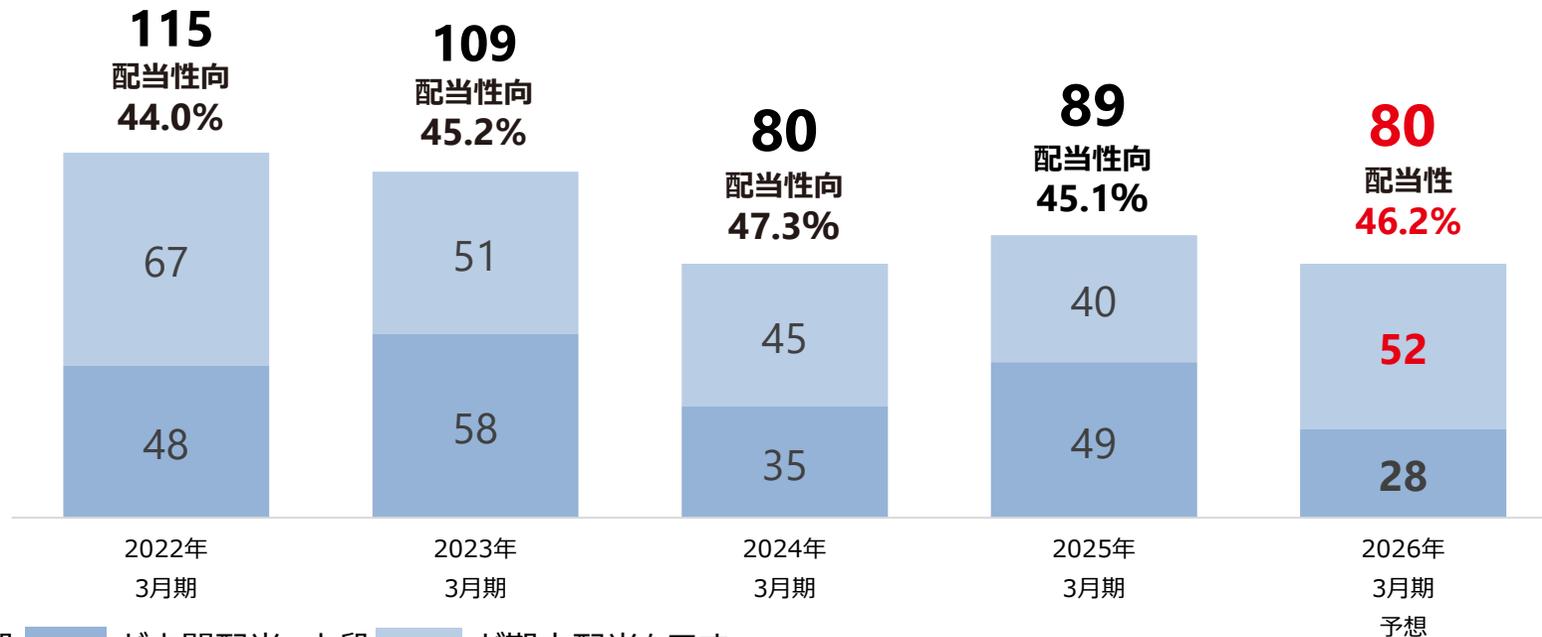
- 年間配当予想は、配当方針「年間最低配当額80円」を適用し、1株あたり80円で据え置き。

2026年3月期 配当予想

配当方針

- ・通期配当性向45%以上
 - ・年間最低配当額80円
- 原則、いずれか高い金額を配当額とする。

(単位：円)



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

3. 重点戦略の実施状況

重点戦略の実施状況

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

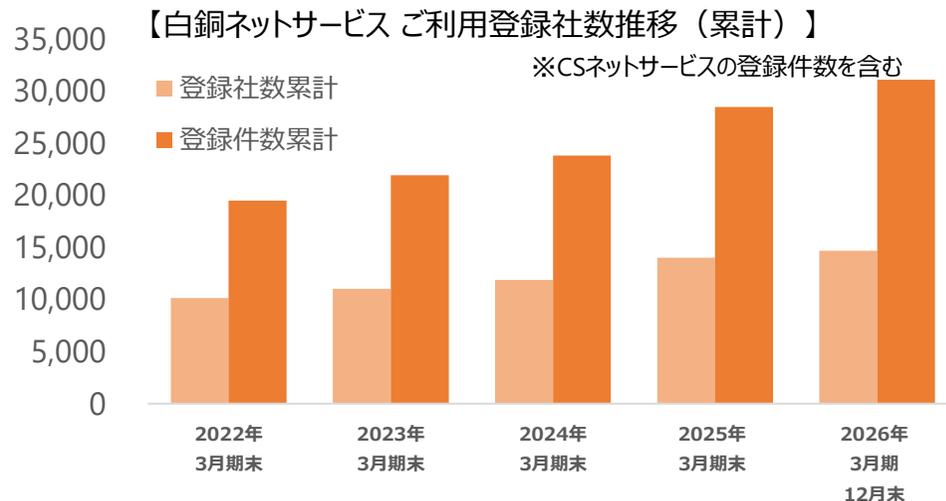
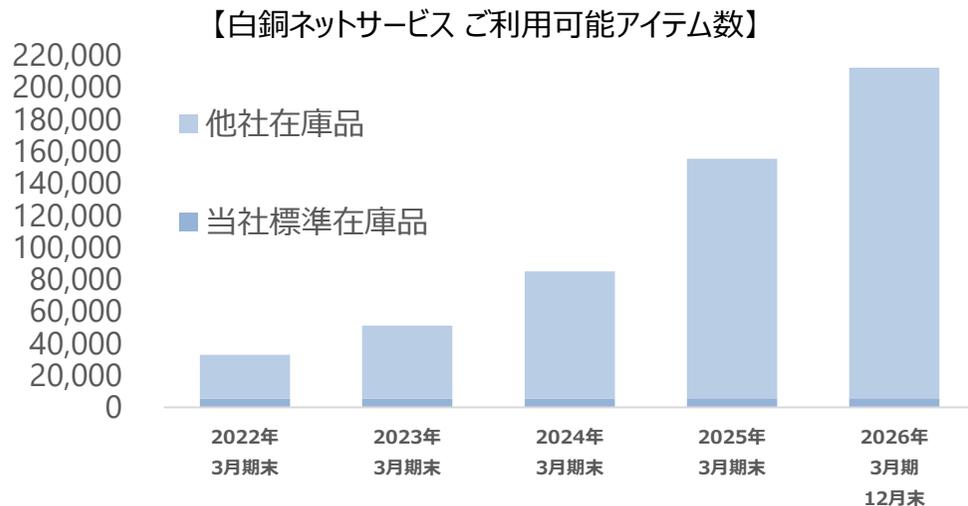
当社標準在庫品
約**5,700**アイテム
+
他社在庫品(取寄せ)
約**206,000**アイテム

※2025年12月末時点

ご利用企業社数
約**15,000**社様
ご登録ユーザー様数
約**31,000**名様

※CSネットサービスの登録件数を含む
※2025年12月末時点

図面加工品にも対応
「金属3Dプリンター造形
見積り・注文」
「データで見積り・注文」
「描いて見積り・注文」
「材料取りアシスト」



重点戦略の実施状況

(2) 成長領域の拡大



専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



新規顧客獲得

金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開

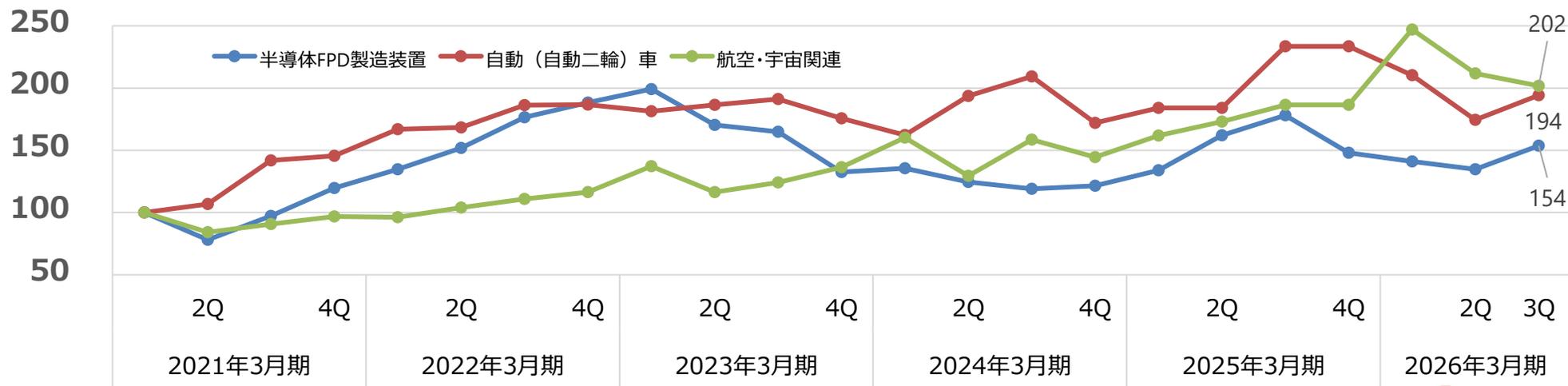


海外材輸入機能強化

WCAS社と連携し、海外メーカー製航空宇宙規格材の輸入機能を強化

【成長領域の売上高指数の四半期推移】

※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

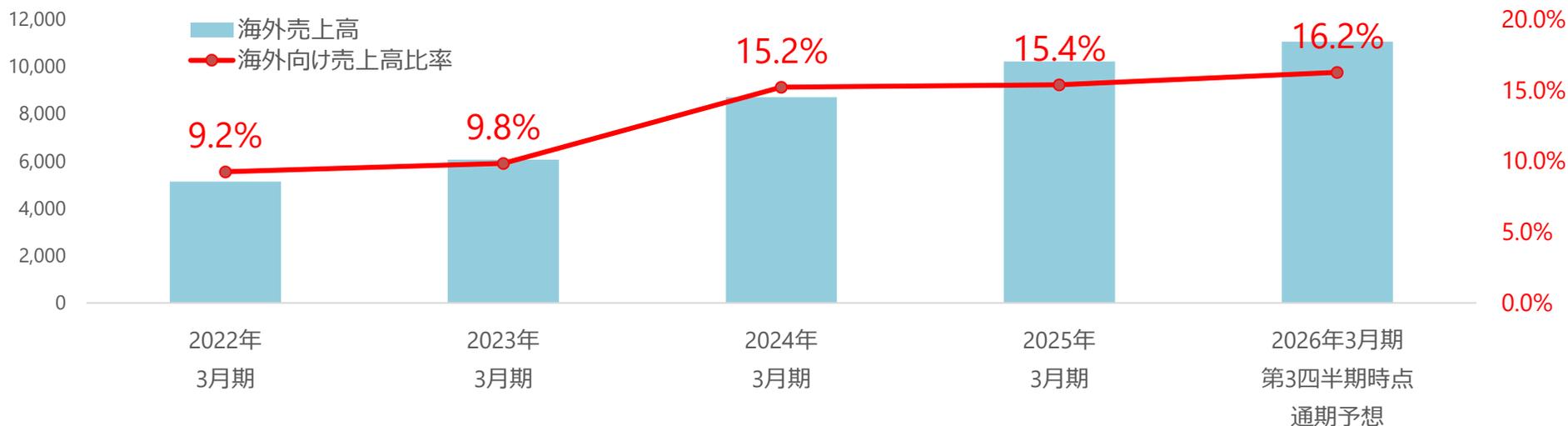


重点戦略の実施状況

(3) 海外事業の拡大

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

(単位：百万円)



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

活動状況

◆ ECパッケージの活用

中国・米国子会社と、ベトナムの出資先でのECパッケージ導入準備を進行中。タイ子会社は導入済み。マレーシアやインドネシアの代理店での導入も検討中。その他、韓国・台湾・インド・フィリピンなどにもECパッケージによる販売を計画中。

◆ 事業の拡大

米国ではWCAS社の株式49%を買収し完全（100%）子会社化。新たに中西部を拠点とするパトリオット・メタル社へ出資。その他、韓国・台湾・インド・フィリピン等での販売を拡大予定。

ご清聴ありがとうございました

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。右記のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！

■ 本資料における注意事項

この資料には、2026年2月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp

